

あ と が き

昭和61年4月、桂坂の地に「京都市立西養護学校」が開校しました。そして、「西総合養護学校」として2年目を迎えた本年、本校は創立20周年を迎えました。

昭和61年4月発行された「西養護学校の教育課程等について」という冊子にこんな一説があります。「本校では、児童・生徒の発達段階・障害の状況・特性などの差が大きく、学習活動の単元や素材は同じであっても、活動内容や学習目標は、個々の児童・生徒に即したものが設定されなければならない。」ここには、開校当時からすでに、「初めに子供ありき」の理念を持ち、今の「個別の包括支援プラン」につながる考えが示されています。また、創立3年目の昭和63年11月に刊行された「京都市立西養護学校教育課程基本篇（第1回改訂版）」に、「(西養護学校開校にあたって)教育課程や指導については、どこかの学校のコピーを作るのではなく、西養護学校独自のもので“子供の可能性を最大限伸ばせる”ような教育体制を整えようと考え出発しました。」と書かれています。私たちの諸先輩が、「時代の先を見た教育の創造」を目指していたことに気づきます。

あれから、20年の歳月を経て、子どもたちを取りまく状況にも様々な変化がありました。その間、本校では、ひとつ先の時代を見越した研究の取組が継続されてきました。そして、これらの研究は、文部科学省教育研究開発学校の指定研究として、京都市の養護学校全体の取組みとして発展し、平成16年4月、総合養護学校として新たなスタートを切りました。

さらに、本校は今年度、養護学校としては全国初の「コミュニティスクール(学校運営協議会)推進事業」の指定を受け、新たな一步を踏み出しています。学校だけでなく、家庭や地域が一体となり、「連続性と継続性」そして「双方向の支援」をキーワードとして、新たな教育の創造をめざして、研究を進めてまいりますので、今後とも、皆様のご指導ご鞭撻を心よりお願いいたします。

教 頭 中 東 朋 子